旭川工業高等専門学校	専攻科共通	開講年度	令和03年度 (2021年度)

学科到達目標

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
		語学研修	0001		1	―――																				篁 耕司	
		課外研修	0002		1	―――																				篁 耕司	
		地域社会研修	0003		1	―――																				篁 耕司	

旭川工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	語学研修

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	/
授業形態		単位の種別と単位数	: 1
開設学科	専攻科共通	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	篁 耕司		

到達目標

1．海外でコミュニケーション能力を向上させようとすることができる。
2．外国人とのコミュニケーションを図ることができる。
3．異なる文化を学ぶことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	意欲 的積極的に海外でコミュニケーション能力を向上させようとすることができる。	海外でコミュニケーション能力を向上させようとすることができる。	海外でのコミュニケーション能力を向上させようとすることができない。
評価項目2	外国人と的確にコミュニケーションを図ることができる。	外国人とコミュニケーションを図ることができる。	外国人とコミュニケーションを図ることができない。
評価項目3	異なる文化を学び，意欲的に尊重することができる。	異なる文化を学び，我が国の文化と比較することができる。	異なる文化を学ぼうとしない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	専攻科１，２年生が対象の科目で，日本の文化・歴史とは異なる国や地域に赴き，国際的に活躍できる技術者としての基礎的知見を得る。 国際的に活躍できる技術者の育成を目指し，実際に外国に行き，異なる文化を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図るための態度や能力の基礎を養う。現地ではＥＳＬコースの受講やExcursion を通して知識や見聞を広め，短期間での実践的コミュニケーション能力の向上を図る。
授業の進め方・方法	この科目は，実際に海外において異文化コミュニケーションを体験することを目的としている。基礎的な英会話を初めとする事前研修，実際に海外の教育機関等において体験する英語コミュニケーション実習，帰国後に体験し，勉強したことを取りまとめて発表する報告会等の実施ノルマがあり，単なる海外体験とは異なる学習機会として臨むこと。 日常接することのない異文化に触れる，母国語の日本語と異なる英語を常時用いるとなど，我が国に暮らしていては体験できないことを学べる絶好の機会である。見るもの聞くもの，全てを吸収しようという意気込みを持ち，貴重な経験とすること。
注意点	英語（外国語）科目，言語表現を始めとする人文系科目，我が国の文化・歴史を学ぶ社会系科目も関連科目となることを留意すること。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	口頭発表	その他（準備）				合計
総合評価割合	50	40	10	0	0	0	100
基礎的能力	10	10	0	0	0	0	20
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	40	30	10	0	0	0	80

旭川工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	課外研修

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	/
授業形態		単位の種別と単位数	: 1
開設学科	専攻科共通	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	篁 耕司		

到達目標

学外で実施される様々な教育的研修により，自らのキャリアを考え，自己を研鑽することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	研修事前準備を十分に行い，研修の目的を良く理解した上で研修に参加し，研修で学んだことを自身の将来にどのように役立てていけるかについても考察することができる。	自身が何を学びたいのかを理解して研修に参加できる。適切な報告書の提出と参加報告を行う事ができる。	目的を理解しないまま研修に参加し，自身の将来との関連についても考えることができない。
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	専攻科１，２年生対象の科目で、学外で実施される旭川高専専攻科の教育目標と関連する目的を持った様々な研修に参加して自己研鑽を図る。なお，研修参加のみに留まらず，そのための事前準備や報告書の提出および口頭による研修参加報告も目標に含まれる。
授業の進め方・方法	研修参加による単位認定については，当該研修が本校の教育目標に照らして適切であり教育的効果が認められることが条件である。課外研修に該当するか否かについては，研修指導教員等から提出された申請書に基づき教務委員会の審議より決定される。 研修期間（必要に応じて準備時間む）及び報告会等の実施時間を合算して30時間以上となる場合に1単位を認定する。ただし，1回の研修で30時間以上に到達しても，同一学年で認定する単位数の上限は1単位である。また，同一学年で30時間以上の研修に2 回以上参加しても，単位申請できるのはいずれか1単位相当の研修だけとする。単位認定を申請する際には，研修実施機関が発行した研修修了証明書または成績証明書等，あるいは本校別紙様式2による研修の参加証明書を提出すること。
注意点	特別研修の評価方法について： 教育目標とのの係わりから研修ごとに評価項目が設定され，総合成績が60点以上で合格とする。ただし，研修参加報告書の提出と口頭による研修参加報告は必ず評価に含まれ，それらは複数教員により評価される必要がある。詳細については単位取得申請書に記載される。報告書は任意書式とする。 ※詳細な到達目標は研修ごとに単位取得申請書(別紙様式1)に明記される。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	口頭報告					合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

旭川工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	地域社会研修

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	/
授業形態		単位の種別と単位数	: 1
開設学科	専攻科共通	対象学年	0
開設期		週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	篁 耕司		

到達目標

地域社会研修の役割や意義を十分に理解した上で，その行動や言動に責任を持ち，誇りをもって活動ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地域社会研修の役割や意義を十分に理解し，その行動や言動に責任を持ち，礼節を守ることができる。	地域社会研修の役割や意義を十分に理解している。	地域社会研修の役割や意義を十分に理解していない。
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	専攻科１，２年生対象の科目で，地域社会研修を通じて実社会の生きた知識を身に付け，さらに地域社会に貢献することの意義を理解することを目的としている。
授業の進め方・方法	地域社会研修にあたっては，地域社会活動の役割や意義を十分に理解した上で，高専生として誇りある活動を常に心がけ，その行動や言動に責任を持ち，礼節を守ること。また，安全面及び心身の健康状態については十分に注意して臨むこと。 所定の「地域社会研修報告書」および「地域社会研修証明書」またはそれに替わる書類で30時間以上の活動を行ったことを確認することにより，到達レベルを評価する。
注意点	地域社会研修により得られた「態度･志向性（人間力）」の主体性，責任感，チームワーク，倫理観を評価する。なお，前年度において対象となる地域社会研修に参加した学生については，その研修時間（30時間に満たない時間）を本年度の研修時間に合算した累計研修時間として確認を受けることができる。

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	研修報告書						合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	100	0	0	0	0	0	100